研修会報告

令和　5 年　1 月　22 日

文　責：　岩木啓太

研修会テーマ「もっともっと知りたい!!宮城県の輸血を支える仲間たち」

開催日時　令和　5 年　1 月　22 日（日）　15：00 ～　17：00

会　　場　　Zoom ウェビナーによる Web 研修会

司　　会　　岩木啓太

生涯教育点数　　専門教科 20 点

参加者　会員参加者 28 名　入会申請中会員 0 名　非会員 0 名　賛助会員 0 名　学生 0 名
　　合計　28 名

シンポジウム講演

【安全な輸血療法、検査を支えるために -シェアする Good アイディア- 】

講師：　仙台厚生病院 浅野陽子 技師
　　大崎市民病院 加藤志真 技師
　　仙台医療センター 原田恵里香 技師

内容

今回の研修会は、宮城県内の中核を担う施設から 3 名の講師に、自施設の輸血検査や輸血療法の管理、取り組みについて講演して頂いた。日々、輸血を担う部門の代表として活躍している講師達の講演は、積み重ねられてきた経験と安全な輸血療法を維持するという使命感に基づいた内容になっており、自身の日々の業務を振り返り考えさせられ、そして心に響くものだった。

検査については、コンピュータクロスマッチを導入している施設にも講演頂けたことで、実運用を考えている施設には参考となる具体的な内容が含まれていたと感じた。

また、計画的に実施されている新人教育訓練を始め、専任では無い技師へのトレーニングや夜間休日勤務者へのマニュアル整備は、検査室内の輸血に対する質を損なわず維持するという強い思いを受け取れた。特に、夜間休日担当者への情報伝達や共有に関しては各施設とも重きを置いており、いかに輸血検査や血液製剤の選択、準備が患者個人毎に対応していかなくてはいけないのか、考えさせられる内容だった。

各施設とも検査室外での活動も活発であり、定期的な医療安全巡視や病棟の輸血製剤の取り扱いを確認する監査は、病院全体の安全な輸血療法に対しても大きく貢献し、責任ある立場で活躍していることが伝わってきた。現場の看護師さんや医療安全担当者との連携から成功した改善策なども紹介頂き、安全な輸血療法のためには、他職種とのコミュニケーションの重要性が感じられた。

輸血検査を担う臨床検査技師にとって、検査のスキルの他に安全な輸血療法のために管理、活動するという一面が必要である。今回の研修会で、他施設と共有、共感できる点があれば自信に繋がり、また、施設でかかえている課題への解決の一助になっていればと願っている。